

あま市都市計画マスタープラン策定委員会（第1回）議事録

■日 時 平成28年2月18日（木）14時00分～15時30分

■場 所 七宝庁舎2階 大会議室

■出席者等

【委員】 19名

【事務局】 5名（中央コンサルタンツ(株)：2名）

【傍聴者】 5名

【その他】 2名（愛知県建設部都市計画課：1名、愛知県海部建設事務所：1名）

議 事

1 あいさつ

小出副市長より委員会開催に際しての挨拶。

2 委員紹介

委員及び事務局等の自己紹介。

3 協議事項

(1) 委員長及び副委員長の選任について

委員長に加藤哲男委員、副委員長に山田精二委員が選任。

(2) 都市マス中間見直しのねらいと進め方について

事務局より、資料2及び2-1の内容について説明。

【質疑・応答】

意見・質問なし

(3) あま市の都市現況の検証等について

事務局より、資料3の内容について説明。

【質疑・応答】

委 員 長 : 4ページの年間商品販売額について、あま市の推移は商業統計調査による平成19年のデータの後に、経済センサスによる平成24年のデータが示されているが、増減率のグラフでは平成19年までのデータで止まっている。これは、平成24年のデータが使えないということなのか。

事 務 局 : 整理してから後程、回答したい。

委 員 長 : 都市計画マスタープランが策定された平成24年以後のデータ等の変化

は、非常に興味深い。人口が増加するという点で、その点は順調にあま市の発展が続いている印象を受けた。質問として、法改正・社会情勢の内容について、本庁舎移転の件は皆様の共通認識があり理解しやすかったと思うが、法改正に関する4つの内容が都市マスの見直しとどのようにリンクするのか、その点について理解が少し不十分と感じているため、皆様に認識していただけるように再度、説明をお願いしたい。

事務局：資料2をご覧いただきたい。今回、審議している都市計画マスタープランは、土地利用や交通、都市計画道路等を色々と細かく決めていくための基本方針に当たるもので、それらに関連する法律が、変わってきている。これらの関連する交通や人口等に関する法律等の改正をしっかりと踏まえた上で、後半期の都市マスタープランの基本方針に色々な事を書き加えていく必要がある。次回の検討からは、拡充すべき基本方針などの案を順次お示しさせていただきたいと考えている。

委員：沢山の数値を用いて良くまとめられていると思うが、結果をもう少し分析しても良いと感じている。例えば、資料3の1ページで、近隣自治体との人口動向の比較に関し、愛西市・津島市などより、あま市の人口増加率が高いと整理しているが、順調に増加している理由も記載してほしい。考えでも良いので、人口分析の方法等を説明していただきたい。

事務局：他の市町においても世帯数は増加しているが、総人口の増加傾向が大きいのは、周辺地域では、大治町、あま市の2市町になっている。資料3の3ページの「人の流動」で整理しているように、本市の通勤先は名古屋市が最も多く、名古屋市方面への交通環境は、これまでの県や市、交通事業者の努力によって、名鉄津島線や2本のバス路線、4車線の国道・県道等が整備されている。この名古屋市に近い地の利と恵まれた交通環境が上手く相まって、名古屋市から遠い市町に比べ、社会増や今後の伸び代があると、簡単であるが客観的に評価している。人の移動の話は、リニア関連も含め、これから重要になってくるため、更に分析を進め、今後は注力すべき点などの案について事務局からお示しさせていただきたい。

委員長：資料に「観光協会」の説明があり、人口の関連として、観光による人の流動も非常に重要である。交通を考える場合は通勤・通学の定住者人口の流動だけではなく、観光面の流動も検討していただきたい。

(4) 期間後半の都市づくりに向けた検討のあり方について

事務局より、資料4の内容について説明を行った。

【質疑・応答】

委員：名古屋駅からあま市まで約6kmの距離、車で約20分で移動できるとい

う利点を更に高めるため、「リニアインパクト」が決定されたこの機会を捉え、名古屋高速鉄道（地下鉄）を西進していただきたい旨について、先日の12日にあま市長や大治町長を含め、近隣市町で愛知県知事や名古屋市市長、各関係部署へ要望に伺い、感触は悪くなかったと感じている。この計画が実現したら、人口や市の状況も驚くほど変わるのではないかと思う。将来的な展望として、名古屋高速鉄道を都市計画マスタープランに入れていただきたい。ご存じの通り名古屋駅から東側へは地下鉄等が伸び、色々な交通網が整備されている。昨日も会議のため東京に行ったが、帰りの車内で、名古屋駅に近づくにつれ、段々と駅周辺の街並みも変わったと感じ、現在、6棟ほどの高層ビルが集団で建っているが、駅西側には大きな建物は無い。まだまだ、駅を中心とした開発等の余地は充分にあるという点を、都市計画マスタープランに加味していただくと有難い。

事務局：名古屋高速鉄道のお話がありましたが、名古屋市都市計画マスタープランに、そのような計画の記載が無いため、今回のあま市都市計画マスタープランにおいても具体的に記載するのは大変難しい問題である。しかしながら、今回の「リニアインパクト」への対応については、公共交通軸等にとって重要な事項であり、都市計画マスタープランに何かの形で書き込みたいと考えており、その検討を進めていく。

委員長：地下鉄の話をする、七宝町時代の都市計画マスタープランをお手伝いした経緯があり、そこにはしっかりと地下鉄の内容が記載されていた。以前も、あま市の都市計画マスタープラン策定委員の方から「地下鉄の事を記載して欲しい」とお話しされたが、「名古屋市都市計画マスタープランに記載されていない地下鉄の内容をあま市のマスタープランには書けない」という理由で、考えを差し控えていただいた。地下鉄は、公共交通として非常に大きなインパクトがあるが、地下鉄の建設には非常にコストが掛かる。最近、公共交通網を活性化するなかで、投資をしても採算が取れない公共交通は非常に難儀している状況である。地下鉄にこだわるのではなく、もう少し経費の安い公共交通のシステムは、検討に値すると考えており、市でも色々検討している段階である。市で検討した内容を何らかの形で都市計画マスタープランの中に位置付けてもらえるという期待をしているので、是非、皆様も議論に加わり検討を進めていただきたい。

委員長：リニアが出来ると「名古屋駅から近くなるため、人が来てくれる」と皆が期待しているが、人や物、お金を含めて引き付けるためには、引き付ける側の魅力が無いと引き付ける事はできない。地域の一番の魅力は、地域の人達が地元で自信を持ち、満足して楽しく暮らしている事であり、それが光になり、その光に人が引き付けられる可能性がある。その

辺も含めて、地域づくりをもっとしっかり取り組むことの方が大事であり、お客さんが来てくれるような地域づくりを行うことが前提になると考えている。

委員：都市計画マスタープランは、人を呼び込むためのハード面を捉えていると考えてよいのか。他のまちづくり委員会ではどちらかというと、個々の力で自治会を盛り上げて人を呼ぼうというソフト面に力を入れている。今回は道路整備などといったハード面の話し合いなのか。

事務局：都市計画マスタープランは、長期的な視点から見たあま市の将来都市像を示し、そのための方針を策定するという点で検討を進めている。マスタープランでは、整備目標等を実現するためのハード施策が主となってしまうが、ソフト面に関しても重要であるため、位置付けをしながら明記していく。双方の側面が入っていると考えていただきたい。

委員長：都市計画マスタープランは、ハード面のみではないので、ソフトもハードも両方織り込んでプランニングしていくという捉え方で良い。

事務局：先程、質問をいただきました資料3の年間商品販売額について、本日の資料では、商業統計調査は平成19年までを使用しているが、商業統計調査や経済センサスの最新値をチェックして表を修正し、後日、各委員に差し替えをさせていただきます。

委員長：多くの資料を説明する事務局の方は大変ご苦勞であるが、ポイントももう少しコンパクトに説明していただきたい。もう一つは、何故このグラフが作成されていて、こういう事を理解していただくという点をおさえていただきたい。都市計画マスタープランの検討委員会で何故この資料を提示するのか、分かりやすく説明していただくと、更に質問が増えるのではないかと思う。

事務局：次回以降、留意して、準備を進めていく。

4 その他

事務局より、次回の委員会は6月の開催を予定していることの説明。

5 閉会

事務局より、閉会のあいさつを行った。

以上